京都市立高校各校の教職員をつなぐ情報紙

# 市高ニュース

2022年10月15日　2022年度　第6号

京都市立高等学校教職員組合

TEL075-771-1328　fax075-752-2148

E-mail：kyotoshiko@sky.plala.or.jp

## 「定年まで働くという生き方、短時間勤務で働くという生き方」について語り合いました！

9月23日(金・祝)に組合学校2022②を実施しました。

前半は「定年まで働く？働ける？その後も人生は続く・・・」をテーマに関口さんや中山さんに話題提供をしていただきました。その中で健康や子育て、介護などの課題を抱えながら仕事をするということ、コロナ以降のデジタル化の進行とともに自宅での勤務が増え、区切りをつけることが難しくなってきていること、肉体面や IT では若手に教わりつつこれまでの経験をどうしたら伝えていけるかということ、定年後の再任用による制度の切れ目によって健康保険の所属変更があり、そのことには注意が必要だったこと、リフレッシュできる時間が必要だということ、第二の人生の準備の話、などなど話題は多岐にわたりました。

後半は「短時間勤務で働くことってどういうこと？」をテーマに佐藤さんに問題提起をしていただきました。短時間勤務に対して実は知らないことがたくさんあることに気づかされました。周囲の理解があっても時間短縮分の人的補充がないと他の人にシワ寄せがいってしまうことが気になってしまうことなどが話されました。ベテランからは子どもを育てることはとても大切なことであり、今その課題に取り組んでいる教職員を支えるのは当然だとの指摘(励まし)もありました。現場の全体としての仕事量が非常に増えている状況をどうするのかは喫緊の課題です。制度はたくさん作られても内実がないのでは画龍点睛を欠くということになりかねず中身のあるものをつくっていく必要があると痛感、それと同時に学校という職場共同体のメンバーとしてお互いにどう支え合うことができるかが大切との指摘もあり「なるほど」と頷くことしきりでした。短時間勤務は育児世代だけでなく定年の迫る世代の制度としてもあるのに、実際はほとんど使われていないのが実情です。これから私たちが働き、生きていくためにどうしていくべきでしょうか？結論はすぐには出ないのですが、いろいろ考えさせられる会でした。ご参加の皆さんありがとうございました。

### 参加者の感想からの抜粋

**・これまで様々な学校で教育活動を行ってきましたが、その際にお世話になった先生方にお会いでき、しかも貴重なお話が聞けたことはとてもありがたいことでした。お話の中にあった「教員の仕事は区切りがつかない」ということは本当にそのとおりで、その状況において退職再任用の先生方や短時間勤務の先生方が精神的身体的負担を感じないようにするためには、職場全体の仕事を減らし、人を増やすことが必要だと、強く感じました。**

**・現在、非常勤講師をしていますが来年度はそれをやめる予定です。その後、どうしていくかについて思案している毎日でしたが、今日の交流でヒントを得られた気がします。**

**・定年の事についてはまだまだ先の事と思っていましたが、保険の問題、賃金の問題等知らないと生活設計にもかかわることがあるのだと知り、大変勉強になりました。**

**・時短の制度を教職員が理解する必要があり、生徒保護者の教職員の勤め方への理解がもっと必要になると思う。広く社会が“働き方”を理解していただく必要があると思う。そのための工夫が大切だと感じました。**

**・教科の後継者づくり，運営委員への立候補など，少しでも職場のスムーズに動くよう意識しているつもりです。ただ，第二の人生の準備をする暇はありません。たまに理科の先輩が運営されている野遊びのボランティアに参加する程度です。社会の再生産のために必要な子育て職場環境という見方，改めて納得。また，衛生委員会が率先して，職場環境を良くしていく，など心に響きました。自分も委員経験者として，できていなかったから。**

**・内田さんの文章がよい。「教育の本質は自学自習である」学ぶこと、学ぶ中から良いものが trickle down する。学び続けられる仕事は素晴らしい。今、そうなっているでしょうか。**

感想の中の「内田さんの文章」というのは会の最後に紹介された内田樹氏の文章のことです。「努力が足りない」と批判され続けている教員に「無駄な仕事をすることはない。本当に大切なことだけに全力を集中したほうが良い」と語っています。教育の本務は子どもたちを服従させ格付けすることではなく、歓待し承認すること、学びへの意欲が起動したら見逃さずに支援することだという内容で、すとんと腑に落ちるものでした。

ところが現在の学校は、仕事が細分化するとともに目まぐるしいほど加速化し、息つく暇もない情況があちこちに見られるのではないかという気がします。「声なき声」ならぬ「声なき悲鳴」に満ちている！？もちろん声なきものは耳（こころ）を澄ませてみないと聴き取れないものですから、「そんなのない」と言われがちですが･･･。

「定年延長」をどのような制度をつくっていくかが問われています。学校教育にとって、そして私たちの働き方にとっても豊穣なものであるには何をどうすればよいのでしょうか!?
多くの人の知恵を寄せ集め、形にしていく必要があると考えます。
そのための場が必要です。

私たち「市高教組」は京都市の高校に勤める教職員の、教職員による、教職員のための組合です。
勤務条件などのことについて京都市教育委員会をはじめ市当局と交渉しています。それは学校の教育条件にも直結するものでもあります。また、学校における私たち自身の教育上の、あるいは働く上での課題について交流したり、学びあったりもしています。今回のような組合学校や教研（教育研究）活動などがそれにあたります。近年の学校は水平の関係より垂直の関係が強まっています。話は「聞く」けど「決定権はない」といった状態が当たり前になってしまってはいないでしょうか？
〈本当に大切なことを大切にできる学校〉で働きたいと思います。
そのためにはトップダウンの関係とは別のもう一つの関係が私たちには必要です。

## あなたの「市高教組」への参加をお待ちしています。

不明な点は最寄りの組合員もしくは市高教組にご連絡ください。

## 組合加入届

私は、＿＿＿＿年＿＿月より京都市立高等学校教職員組合に加入します。

＿＿＿＿年＿＿月＿＿日

高校＿＿＿＿氏名